

庄内町保健医療福祉推進委員会議事録

開催日時：平成29年1月20日（金）午後1：30～3：30

場 所：余目保健センター

出席委員：菅原源也、齋藤学、市村正浩、遠藤 秀男、佐藤昭一、佐藤トク、庄司武晴、齋藤君夫、鎌田剛、水尾良孝、中鉢智幸、鈴木恵子、工藤むつ子、渡會弘喜

出席職員：池田保健福祉課長、石川主幹、高山課長補佐、鈴木主査兼地域支援係長
長南主査兼介護保険係長、加藤主査兼福祉係長、阿部主査兼健康福祉係長
池田保健師、荒木主任

内容は次の通り

1 開会

2 諮問 池田保健福祉課長 水尾委員長に庄内町地域福祉計画の策定について諮問書を交付

3 委員長あいさつ 水尾委員長 本日2回目の会議で諮問を受けた地域福祉計画は、3月17日までの答申期限となっている。忌憚ないご意見をお願いしたい。

4 報告事項

(1) 庄内町の自殺対策について

池田保健師より現状と取組みを報告（資料1）

菅原委員：事業所でストレスチェックが実施されているはずだが、町役場は行っているか。

高山補佐：役場では、職員の健康診断と一緒にいき、産業医の面談等も実施している。

菅原委員：自殺対策については、以前単独の会議だったと思うが。

高山補佐：平成22年度に、単独の会議を行っている。平成30年度に策定する市町村計画策定の際に協議したい。

水尾委員長：自殺者が減らない現状があるので、これからも取組みに力を入れてほしい。

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

鈴木主査兼地域支援係長より前回の会議で案を示した調査について報告（資料2）

鎌田委員：調査票の9ページ問5の(2)にある「いきいきした地域づくり」は誘導質問ではないか。表現を変えてはどうか。

鈴木主査：印刷準備がすすんでいるので、間に合えば変更したいが、できない時は、次回の参考としたい。

水尾委員長：調査対象者について先程説明あったが、確認したい。

鈴木主査：7圏域に分け、人口割合で要支援1～2の認定のある人と介護認定のない人をランダム抽出している。65～74歳(6割程度)・75歳以上(4割程度)に分けている。団塊の世代が75歳以上になる2050年を見据えている。

水尾委員長：回収率80%とあるが、回収率を上げる努力をしていただきたい。

(3) 生活支援協議体経過報告

鈴木主査兼地域支援係長より報告(資料3)

菅原委員：老年学会のメディカルレポートに、65歳以上を高齢者とひとくくりにするのはおかしい。65～74歳：準高齢者・75～89歳：高齢者・90歳以上：超高齢者としてはとあったが、65歳以上をいっしょくたんにした対応おかしい。いっしょくたんの計画に無理があるのではないか。

鈴木主査：新聞に記事が掲載されていたが、国・県からの通知がないのでこれからの動向を見て行く。高齢者が増えているのが現状であるが、65～74歳の人のどの位支援する人になれるのか。介護認定は、65歳以上が18%位で、75歳以上の高齢者に多くなっている。先生がお話しになったことが考えとして近い。

鎌田委員：庄内町生活支援体制整備事業実施要綱の第5条の協議体の構成が、福祉寄りになっているようだが、サービスには民間企業も入ってきているので、構成に民間企業も入れてはどうか。例えばJAなどを、構成に入れなくても意見をいただいてはどうか。

鈴木主査：第5条の協議体の構成(7)ボランティア団体は若い人もいる。(9)生活支援事業を行う団体及び事業所はJAから参加してもらっている。他に色々な団体から意見をいただく予定である。

5 協議

(1) 庄内町地域福祉計画の策定について

加藤主査：計画書(案)を事前に委員に送付し、お示ししてあるので、ご意見いただきたい。

市村委員：現行の計画よりもコンパクトになっているが、第4章はコンパクトになりすぎていないか。政策の方向性と具体的取り組みが同じになっていないのでは。保健医療・母子等の計画内容がないのでは。

加藤主査：コンパクトになっている事、同じ言葉が繰り返されている事を感じている。具体的取り組みに、各担当が行っている事を盛り込むべきかと思っている。保健医療・母子等の視点が欠けていることもわかっている。具体的過ぎるよりもと考え、ざっくりした計画にしている。

市村委員：他の計画の視点を総合的に計画するとあるが、体系にはでてきているが具体的な施策としてでてきていない。

水尾委員長：社会福祉協議会の福祉活動計画と一体的に策定するとあるが、社会福祉協議会から意見はないか。

齋藤(君)委員：福祉活動計画については、2月9日に2回目の会議を予定している。協働と連携で進めていく。

鎌田委員：現行の計画の評価が盛り込まれていないようだが。

加藤主査：評価は特に載せていない。現状と課題のまとめで、評価を踏まえている。

鎌田委員：具体的でなくても評価あった方が良いのでは。

水尾委員長：評価をこれから盛り込むのか。

加藤主査：具体的にどうすれば良いのか。

鎌田委員：考え方・視点・としては、課題のところに評価あれば良いのでは。積残した課題が入っていれば良いのでは。

水尾委員長：目に見える評価というと、目標数値を掲げて達成したかどうかというものであるが、具体的な改正にいたる経過等を簡潔に入れてみてはどうか。

菅原委員：基本理念の「健やかでやさしい健康・福祉のまちづくり」のやさしいはどこにかかるのか。

佐藤委員：受ける方の考え方で良いのでは。

水尾委員長：事務局はどう考えているのか。

加藤主査：第2次の総合計画の基本目標をもってきたものである。「健やかでやさしい健康・福祉のまちづくり」で、やさしいの後にスペースが入り、健康・福祉のまちづくりにかかるものと思われる。

鎌田委員：現行計画から見て、新しい部分、特に力を入れている部分がわかった方が良いのでは。

加藤主査：新しいという点では、社会福祉協議会の福祉活動計画と一体的に作成する。新しい制度、生活困窮者自立支援制度や障害者差別解消法などもあるので、入れるべき項目があると思う。

佐藤委員：老人クラブの加入者が減少している。加入者を増やすため協力をお願いしたい。支え合って、支えてもらうものだと思っている。

水尾委員長：福祉計画と福祉活動計画を一緒にしたものを作成するのか。

加藤主査：酒田市で一緒に計画書を作成している。同様の物を考えている。

齋藤(君)委員：少子高齢化という点で、少子化を解消しないと福祉がついて行かない、少子対策が必要では。何か対策がないか。高齢化はやむをえない。

水尾委員長：子育て支援の内容が抜けているようだが、いかがか。

加藤主査：安心して暮らせるまちづくりの推進のところに包含している。現状を第4章でまとめている。

齋藤(君)委員：安心して暮らせるだけで少子対策になるのか。

加藤主査：対象となる「誰もが」を子供からお年寄りまでと具体的に表現するなど、町民の方が見てわかりやすい文言に変えたほうがいいか。

池田課長：抜けている部分多く、いただいたご意見を参考に検討し、次回もう一度提案したい。

水尾委員長：次回まで整理して、再度提案いただきたい。

鎌田委員：第3期の計画策定時にもまた、評価は？と言われることになると思うので次の計画に向けて評価のできる表現にしては。見せ方を工夫しては新しさやこんなことができたということが見てわかる感じになれば。

高山補佐：さまざまなご指摘・ご意見がありましたので、参考にしていきたいと思います。本日の会議はこれまでにして、次回の3回目の日程を調整したい。都合の悪い日がある方は、教えていただきたい。

計画の答申が3月17日で4週間のパブリックコメントの期間を設けることになるので、2月中旬に開催したい。次回でまとまらない場合は、委員長と事務局に一任いただきたい。

水尾委員長：社会福祉協議会の福祉活動計画との関連もあるので、会長ご意見あればお願いしたい。

齋藤(君)委員：2月9日の2回目の会議に、町担当の出席をお願いしたい。

高山補佐：次回の会議を、第1案2月16日(木)、第2案2月17日(金)で予定したい。

(2) その他

なし

6 その他

次回3回目の会議を、早めにお知らせいたします。

なかみの濃い審議をしていただき、ありがとうございました。

7 閉会